

## 外郭団体経営健全化方針の概要と取り組み状況

### 【名古屋ガイドウェイバス株式会社】

経営健全化方針の記載内容	令和元年度の取り組み結果
<p><b>財務構造の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備更新における会社の負担軽減を図ることや市からの貸付金を解決し債務超過を解消することが必要であることから、市とガイドウェイバス（株）が、様々な経営再建手法について検討し経営再建計画を策定していく。</li> <li>・鉄道事業に近い設備となっている駅内装、運行監視システム、駅監視システムなどの設備更新費用における市の支援のあり方について検討していく。</li> <li>・資産価値がほとんど減失している初期の車両購入費や建設時の整備事業費に充当した建設時貸付金の返済方法及び債務超過の解消に向けて検討していく。</li> </ul>	<p>市と会社の意見交換を行い、以下の事項を整理する必要があることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化の進む施設や車両の維持管理・更新に係る事業量や必要資金等の検討</li> <li>・今後の会社の収支見通しをもとに、会社資金の過不足及び借入金の返済余力の把握</li> <li>・次期車両更新までの間に必要な市の関わり方についての検討</li> </ul>
<p><b>輸送事業の再構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次期車両更新に向けて自動運転技術を活用した新たなシステムの導入を目指し新型車両の開発に着手する。これにより、バスの低床化、ピーク時の隊列走行による輸送力増強、正着性・加減速制動などの新たな機能の導入により乗り心地を向上させ、利用者の増加を図っていく。</li> <li>・全車の無人運転化を目指す中で労働集約型コスト構造の転換を図っていくこととし、当面の目標として隊列走行時における後続車の無人化に取り組んでいく。</li> <li>・これらの取り組みは、システム自体の高度化・再構築を志向していることに加え、志段味線の導入経緯、全市の交通ネットワークの企画・推進の観点から、市が会社と共同して車両及び運行システムの開発を実施する。</li> </ul>	<p>次期車両更新は会社の輸送事業の再構築が必要となる可能性が高いことから、市と会社が協力して、主に次のことについて情報収集と検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転技術を活用した新たな輸送システムの導入に向けた、既存インフラの安全対策についての検討</li> <li>・次期車両更新に係る情報収集と課題整理のために国・研究機関・関連メーカー・事業者にヒアリングを実施</li> </ul>

団体名( 名古屋ガイドウェイバス株式会社 )

○法人の財務状況

(貸借対照表から)

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
資産総額	1,423,578	1,317,143	1,265,583
負債総額	2,116,523	1,996,392	1,962,917
純資産総額	-692,945	-679,250	-697,334

(損益計算書から)

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
経常収益	717,013	741,904	716,682
経常費用	699,807	727,141	733,789
経常損益	17,206	14,762	-17,107
経常外損益	0	-110	0
当期純損益	16,249	13,696	-18,084

○財政的リスクの状況

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
債務超過額	692,945	679,250	697,334
損失補償、債務保証及び 短期貸付けの合計額(A)	0	0	0
標準財政規模(B)	642,220,441	644,498,894	646,827,243
(A) / (B)	0	0	0